

安井武雄

代表作品

年 譜

関連資料

自由様式の建築家 安井武雄



大阪倶楽部、大阪ガスビルなどの設計で知られる建築家安井武雄は、軍人の父の期待に背いて建築の道を選ぶ。大学の卒業設計は不文律の伝統に抗して住宅建築を選び、内地で栄達の道へ進む友と別れて中国大陸に渡る。

以来誰も師と仰がず、建築近代化の激しい流れの中であって、ひたすら「真にして美なるもの」を求めて自立の道を歩み続け、独自の「自由様式の建築」を創造する。大正中期に安井武雄建築事務所を創設し、大阪の実業家野村徳七、山口吉郎兵衛などの支援のもとに多くの名作を世に送り出す。

戦時中の試練に対しても自由不羈の志を曲げず、また戦後の時流になびくこともなく、寡黙に作品を創り続けて生涯を閉じる。

安井武雄

代表作品

年 譜

関連資料

代表作品



大阪倶楽部

1924



野村銀行京都支店

1926



高麗橋野村ビル

1927



日本橋野村ビル

1930



安井武雄自邸

1931



大阪ガスビル

1933



山口吉郎兵衛邸

1933



京都競馬場

1938



大和紡績本社ビル

1952

安井武雄

代表作品

年譜

関連資料

< HOME

大阪倶楽部

1924

NEXT >



1914年(大正11)に野口孫市により北欧(イギリス)中世風の城館建築を基調としてデザインされた大阪倶楽部の木造4階建の旧館が、1922年7月突然の出火で焼失する。

急遽建築委員会を設置、片岡安、宗兵蔵、日高胖の3顧問が建築規模と所要室の輪郭を定め、実施設計担当者を安井武雄に指名する。

安井は旧館とは逆に南欧(ローマ)の市街地建築を基調とした新館をデザインする。このあたりにも安井の個性的な建築家としての面目が現われている。竣工パンフレットに安井は自らこの建物を、「南欧風ノ様式ニ東洋風ノ手法ヲ加味セルモノ」と説明している。

軒の出のない寄棟と方形の屋根、1階および最上階に並ぶアーチ、全体に量塊(マッス)を強く出した造形は古代ローマ郊外の港町オステアの集合住宅(インストラ)の姿によく似ている。

一方建物正面に置かれた、4本のトーテム・ポールは、頂部に載る彫刻も台座の繰形も明らかに東洋的なモチーフであり、曲線である。安井はこの大阪倶楽部新館の竣工を契機に、1924年(大正13)安井建築事務所を創立する。



正面玄関



1階広間 噴水と泉盤

安井武雄

代表作品

年 譜

関連資料

< PREV

野村銀行京都支店
1926

NEXT >



安井武雄が**事務所開設**と同時に設計に着手した作品。

地上3階、地下1階。平面は正方形に近く、間口と軒高がほぼ等しい立方体の形状をしている。正面、側面とも頂点の高いアーチを3つ並べ、その間に四角い壁柱(ピラスター)を立てる。

全体造形は単純明快で量感、比例(プロポーション)、陰影とも優れている。



柱彫刻スケッチ

安井武雄

代表作品

年 譜

関連資料

< PREV

高麗橋野村ビル
1927

NEXT >



野村合名の地所部が建てた最初の貸ビル。堺筋に面し、間口は広いが奥行は2スパンしかなく非常に浅い。1階は貸店舗、その上は6階まで貸事務室とする。

全体の造形は表現派的手法による。安井は浅い奥行を補って建物の量感を出すために、各階間の腰壁は上端を外にせり出して傾斜させた。これはかつてE.メンデルゾーンがベルリンの新聞社増築(1923年)で用いたのと同じ手法である。

安井は1923年(大正12)に「ギリシャ古典芸術に関する一考察」という論文を発表し、動的均整(ダイナミック・シンメトリー)について強い感心を示しているが、このビルの造形でその理論の実現化を目指したと思われる。

1階と最上階をやや軽くし、2~5階の中層部を水平・垂直の線や面を組み合わせることで量感を高める、均整のとれた動的(ダイナミック)な表現が造形の主軸となっている。

しかしこの建物では、腰壁天端の瓦形タイルや、玄関脇の三日月形の照明を載せた独立柱など、大胆で人目を引く東洋的装飾がまだ多く見受けられる。これは、おそらく安井武雄が貸ビルというこの建築の性格を意識して行なったデザインであろう。



外観スケッチ

安井武雄

代表作品

年 譜

関連資料

< PREV

日本橋野村ビル
1930

NEXT >



この建物は野村コンツエルの東京進出の拠点として建てられた。野村の拠点は東京に数あるビルの亜流であってならない。

安井武雄は先ずこのことを思い、創造の意欲を燃やした。しかも敷地は日本橋のたもとという最も目立つ場所である。安井は高麗橋野村ビルのデザインをベースに独自のオフィスビルの定型を創出しようとする。

日本橋野村ビルは、外壁のタイルの色調や陶器瓦(テラカッタ)の腰蛇腹などに「土」の温かみは残してはいるものの、窓にも玄関にも高麗橋までの作品に見られた装飾は全く姿を消し、外観はただ量感(マッサ)としての造形表現を厳しく追及している。

そして、足元と頭を軽く中間を重くし、全体から部分にわたって、形の比例(プロポーション)、垂直・水平の対比調和(バランス)を厳しく追及する動的均整(ダイナミック・シンメトリー)の設計手法が外観デザインの基本に据えられている。

安井武雄

代表作品

年 譜

関連資料

< PREV

安井武雄自邸

1931

NEXT >



阪急電鉄神戸線夙川駅近くの斜面に立つ。

鉄筋コンクリート造の地階の上に、木造の1・2階を載せる。しかしモルタル外壁に陸屋根のため、鉄筋コンクリート造3階建住宅のように見える。

安井武雄はこの自邸で、当時欧米で興りつつあった国際様式(インターナショナル・スタイル)を意識しながら、独自の建築造形の創造追求を行なったものと思われる。

技術の進歩と美意識の変貌の流れの中に身を置く建築家として、当然研究しなければならない建築課題を自邸で試みたものと解される。



自邸スケッチ

安井武雄

代表作品

年 譜

関連資料

< PREV

大阪ガスビル
1933

NEXT >



安井武雄がいう「使用目的及び構造に基ける自由様式」を完全に結実させた記念碑的作品。

「使用目的」と「構造」に基づくとは、近代合理主義に基づくと解してよい。その近代合理主義に基づく設計の結果を安井は「自由様式」と名付けた。「自由」とは過去の歴史様式からも、海外の新建築思想からも自由という意味であろう。つまりこのガスビルは、安井が独自に自由に発想し設計したのだという自負がこめられている。

このビルの平面図と外観写真を並べて、「自由様式」のデザインについて眺めてみよう。

1階は家庭用ガス器具の展示が主である。そのために陳列場の東と南にショーウィンドを設けた。それも柱間を1スパン引っ込め、太陽光線の眩惑を避け、雨の日も傘なしで眺められるようにアーケードが設けられている。

2階は出窓で水平連続窓が横に走り外観にモダンな国際様式(インターナショナル・スタイル)の印象を与えている。しかしこの連続窓が設けられた目的は他にも一つあって、窓下の黒御影石張りの腰壁の中には空調の横引きダクトが納められている。

そして、2階以上の外壁の柱は1階に比べスパンが半分になり柱数が2倍に増えている。それらの柱の1本おきに2階窓下で横に走るダクトから立ちあげた垂直ダクトが納められている。

8階は再び柱間が2倍にひろがり柱数を半分に減らして、展望食堂の食卓からの眺めに配慮している。8階食堂の空調は別系統にしてあるため垂直ダクトはここでは不要である。

2・3・4階の西端に窓がなく壁だけの部分がある。講演場の部分である。2階の講演場の屋外避難路がそのまま1階銀行部分の庇となっている。講演場の舞台スクリーンまでの距離を十分にとるために外部に張り出した映写室も南側外観のアクセントになっている。



外観スケッチ

安井武雄

代表作品

年譜

関連資料

< PREV

山口吉郎兵衛邸

1933

NEXT >



大阪の貿易商布屋の2代目、山口銀行を興した山口吉郎兵衛の長屋門のある旧邸は市内上本町にあった。山口吉郎兵衛はここを引き払い山芦屋に入手した敷地に邸宅を移すに際して、設計を安井武雄に依頼する。恐らく山口が顔を出していた茶会の常連の一人野村徳七の示唆によるものと思われる。

山口邸は大邸宅であり部屋数も非常に多い。しかしよく見ると、基本的なゾーニングや動線処理は明快である。

地階は茶室と陳列室を中心とする趣味のための諸室が並ぶ。本館1・2階は2つの部分に別れる。玄関広間とその上の2階大座敷を含む方形の部分は、この家の最も公的空間である。大座敷では銀行の株主総会も開かれた。

本館の残りの部分は家族の私的空間である。両者を結ぶ位置に大階段室が設けられている。木造平屋の南には和風接客空間、北には炊事場、女中室など生活諸室がまとめられている。



南立面図

安井武雄

代表作品

年譜

関連資料

< PREV

京都競馬場
1938

NEXT >



京都競馬場の工事概要に「建築様式」の項はない。特異な種類の建築だということもあろう。

しかし、当時雑誌に発表した「**京都競馬場馬見所の設計経過と概要**」(『建築と社会』第21輯第11号)を読むと、安井武雄のいう「使用目的及び構造に基く自由様式」の思想は、この作品でも完全に貫かれていることがわかる。

良好な視野を確保するための支柱のない27m持出しの大屋根、最善の視野で観戦を可能にするためのゴンドラ、出場馬を十分に観察するための下見所の馬蹄形スタンド、東部観客席より決勝線を正視するための大屋根東端の緩いカーブなど、そのまま魅力的な造形デザインに直結している。

安井武雄

代表作品

年 譜

関連資料

< PREV

大和紡績本社ビル
1952

HOME >



戦後の再出発で、安井武雄が最初に手掛けた本格的なビル建築。

この作品にはデザイン密度の高さはあるが、**大阪ガスビル**に見た強い個性と前衛性は感じられない。戦中戦後のブランクは、安井のように最盛期にあった建築家の進路に大きなダメージを与えた。



外観透視図



- 安井武雄
- 代表作品
- 年 譜
- 関連資料

年 譜	事項	代表作
1884(明17)	千葉県佐倉に生まれる。	
1903(明36)	豊橋中学から一高へ入学。 白馬会洋画研究所で藤島武二の指導を受ける。	
1910(明43)	東京帝国大学建築学科卒業。 南満州鉄道株式会社へ入社。	
1911(明44)	この頃中国各地をめぐる東洋風といわれるデザインの素地を身につける。	□大連税関長舎宅
1919(大 8)	満鉄を辞し大阪の片岡建築事務所に移る。	
1920(大 9)	神戸川崎病院の設計をニューヨークの建築事務所と協同で行うため片岡事務所から派遣され渡米。滞米中に米国主要都市の建築を見て回る。	
1922(大11)	関西建築家の同人雑誌『柊』に論文「 ギリシャ古典芸術に関する一考察 」を発表。	
1924(大13)	片岡事務所を辞し安井武雄建築事務所を創設。	■大阪倶楽部 □野村銀行本店
1925(大14)	早稲田大学講師をこの年から昭和10年まで務める。	
1926(大15)	『新建築』が「 安井武雄特集号 」を発行。	□野村證券本社 ■野村銀行京都支店
1927(昭 2)	事務所を高麗橋野村ビルへ移す。	■高麗橋野村ビル
1929(昭 4)	『新建築』が再び「 安井武雄特集号 」を発行。	□関川貞雄邸
1930(昭 5)		■日本橋野村ビル
1931(昭 6)		■安井武雄自邸
1932(昭 7)		□味の素ビル
1933(昭 8)	京都大学講師をこの年から昭和21年まで務める。	■大阪ガスビル ■山口吉郎兵衛邸
1935(昭10)		□野村元五郎邸
1936(昭11)		□満鉄東京支社
1937(昭12)	随想「 踏んできた道 」を『建築知識』に発表。	□京都野村生命ビル
1938(昭13)		■京都競馬場
1940(昭15)	「 安井武雄作品譜 」を刊行。	
1945(昭20)	終戦直前に事務所のあった高麗橋野村ビルを海軍が接收。 夙川の自邸は米軍が接收。	
1951(昭26)	随想「 私の心境 」を『建築と社会』に発表。	
1952(昭27)		■大和紡績本社ビル
1953(昭28)		□日綿実業本社
1955(昭30)	日本橋野村ビル新館の設計中病に倒れ5月23日逝去。	

『建築と社会』が「安井武雄特集号」を発行し業績を讃える...

Copyright (c) 1998-2005 Yasui Architects & Engineers, Inc.

安井武雄

代表作品

年譜

関連資料

関連資料

論文

- 「ムアッシュルーム床に就いて」、安井武雄、建築雑誌、No.314、No.316、No.318、1913

自著

- 「作品譜」、安井武雄、城南書院、1940.7

雑誌掲載

- 「汎米建築」、安井武雄、建築と社会、3輯1号、1920
- 「大阪市区改造計画に対して」、安井武雄、建築と社会、3輯4号、1920
- 「ギリシャ古典芸術に関する一考察」、安井武雄、椋、第1号、1923
- 「某氏の住宅」、安井武雄、新建築、2巻2号、1926.2
- 「友人の家」、安井武雄、新建築、2巻3号、1926.3
- 「ギリシャ古典芸術に関する一考察」、安井武雄、新建築、3巻3号、1927.3
- 「私の家」、安井武雄、新建築、3巻11号、1927
- 「昭和四年の建築を顧みて」、安井武雄、建築と社会、13輯1号、1930.1
- 「物の後半生」、安井武雄、日刊土木建築資料新聞、No.1232、付録、1933.6.20
- 「偶録」、安井武雄、建築知識、2巻1号、1936.1
- 「踏んで来た道」、安井武雄、建築知識、3巻1号、1937.1
- 「京都競馬場馬見所の設計経過と概要」、安井武雄、建築と社会、21輯11号、1938.11
- 「私の心境」、安井武雄、建築と社会、32輯8号、1951.8
- 「材料の使い方について」、安井武雄、建築と社会、35輯8号、1954.8
- 「三度目の住まい」、安井武雄、建築と社会、35輯11号、1954.11

座談会など

- 「安井武雄特集」、新建築、2巻11号、1926.11
- 「安井武雄特集」、新建築、5巻10号、1929.10
- 「満州と建築(講演)」、建築と社会、15輯3号、1932.1
- 「最近15年間における関西建築界の変遷を語る会(座談会)」、建築と社会、15輯10号、1932
- 「協会の将来を語る座談会(座談会)」、建築と社会、15輯10号、1932
- 「満州の新建築を語る会(座談会)」、建築知識、1巻2号、1935.2
- 「関西建築家の“住宅”を語る会(座談会)」、建築知識、1巻4号、1935.6
- 「市街地建築物法改正に関して(座談会)」、建築と社会、22輯3号、1940.2
- 「建築界の将来を語る座談会(座談会)」、建築と社会、25輯5号、1942.5
- 「時局下の建築を語る会 - 壮年者と若年者の対談会(座談会)」、建築と社会、26輯1号、1942.11
- 「安井武雄特集」、建築と社会、36輯8号、1955.8

関連書籍

- 「日本の建築・明治大正昭和 6.都市の精華」、三省堂、1979
- 「ガスビル50年の記録」、大阪ガスビルディング編、1983
- 「自由様式への道 建築家安井武雄伝」、山口廣、南洋堂出版、1984.9
- 「関西の近代建築 - ウォートルスから村野藤吾まで -」、石田潤一郎、中央公論美術出版、1996.11